

シューベルト 合唱曲「詩編第 23 編」 Der 23 Psalm

1820 年 12 月作曲 D706

フランツ・シューベルト (1797~1828) はカトリックの信徒で、多くの宗教曲を作曲した。

旧約聖書の詩編第 23 編 (モーゼス・メンデルスゾーン=作曲家フェリクス・メンデルスゾーンの祖父=によるドイツ語訳) に曲を付けたもの。

Gott ist mein Hirt, mir wird nichts mangeln.
Er lagert mich auf grüne Weide,
Er leitet mich an stillen Bächen,
Er labt mein schmachtendes Gemüt,
Er führt mich auf rechtem Steige
Zu seines Namens Ruhm.

Und wall' ich auch im Todesschattens Tale,
So wall' ich ohne Furcht,
Denn Du beschüttest mich,
Dein Stab und Deine Stütze
Sind mir immerdar mein Trost.

Du richtest mir ein Freudenmahl
Im Angesicht der Feinde zu,
Du salbst mein Haupt mit Öle
Und schenkst mir volle Becher ein;
Mir folget Heil und Seligkeit
In diesem Leben nach,
Einst ruh' ich ew'ge Zeit
Dort in des Ew'gen Haus.

神はわたしの羊飼い、わたしには何も欠けることがない。
彼はわたしを緑の牧場に伏させ、
彼はわたしを静かな小川にともない、
彼はわたしの渇き苦しむ魂を生き返らせてくださる。
彼はわたしを正しい道に導かれる、
彼の名があがめられるために。

そしてわたしは死の陰の谷を行く、
わたしは行く、恐れることなく。
なぜならあなたがわたしを守ってくださるから。
あなたの杖とあなたの支えが
わたしにとっていつ (まで) もわたしの慰め。

あなたはわたしのために喜びの食事を整えてくださる、
敵を前にしても。
あなたはわたしの頭に油を注ぎ
わたしの杯が溢れるほどに注ぎ入れてくださる。
わたしには救いと喜びがともなう、
この命のある限り。
いつかわたしは憩う、永遠に
そこに、永遠の家に。

1. 詩編は旧約聖書の中にある詩歌集。第 23 編は、150 ある詩編の中で最も愛されてきたもの。
個人の祈りとして、またイスラエル民族の礼拝、キリスト教の礼拝の歌として用いられてきた。
2. 冒頭という言葉は普通は「主はわたしの羊飼い」と訳される。「主」とは神さまのこと。
この詩編が作られて数百年の後、新約聖書においては「主」はイエス・キリストを指す言葉となった。
主イエスはわたしたちを守り、養い、導いてくださる羊飼い。
新約聖書「ヨハネによる福音書」の中に次のようなイエスの言葉がある。
「わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。」ヨハネ 10:11
「わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている。」ヨハネ 10:14
3. このドイツ語歌詞で印象的なのは、神を **Du (あなた)** と呼んでいること。家族、恋人、親しい友人の間でのみこの言葉は使われる。
普通の改まった関係では **Sie** が使われる。私たちが主イエスを、愛する方、慕わしい方、心の安らぐ友として呼ぼう。